

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 646 号 | 氏名 | 古川 克郎 |
| 学位審査委員 | 主 査 | 李 桃生 | |
| | 副 査 | 江口 晋 | |
| | 副 査 | 柳原 克紀 | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、ラットの肺部分切除術後に、ヒト上皮細胞増殖因子 (KGF) 蛋白を気管内に投与し、KGF の代償性肺再生の促進効果を検証したもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 右肺 4 葉のうち 3 葉を摘出した生後 8 週のラットの気管内に、手術後から、リン酸緩衝生理食塩水、0.4 mg/kg の KGF, あるいは 4.0 mg/kg の KGF をそれぞれ単回投与、2 日間連続投与、3 日間連続投与し、残存する尾状葉における代償性肺再生について、免疫組織学的に詳細な解析を行った。これらの研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、KGF 蛋白の気管内投与により、残存肺組織内で SP-A 陽性細胞数が増加し、肺胞上皮細胞の増殖促進が認められた。 単回投与では、多量の KGF 投与で高い細胞増殖促進効果が観察されたが、連日投与の場合には、より少量の KGF 投与で十分な細胞増殖促進効果を認めた。以上の結果から、KGF の気管内投与が、代償性肺再生を促進することを明らかにした点は、大いに評価できる。今後の肺再生治療の進展に寄与することが期待される。</p> <p>以上のように、本論文は外傷や肺部分切除、あるいは部分肺移植後の肺の再生治療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |